



青梅市立西中学校

【由来】3本の針葉樹を山の形に組み、学びのイメージのペン先と組み合わせ、すばらしい環境で学ぶ様子をシンボル化しました。

令和6年度学校要覧

所在地 〒198-0063 青梅市梅郷 6-1460-1
電話 (0428) 76-0114・0433
FAX (0428) 76-2394
最寄り駅 JR青梅線「石神前」駅下車
または 東京都営バス「上郷」下車

校長 梅田 尚之 副校長 加藤 誠 主幹教諭

PTA会長

沿革の概要

S48.04/01 青梅市立西中学校設立認可
初代校長 並木 実 就任
S48.04/06 開校式、入学式、始業式挙行 12 学級、生徒数 493 名
S48.04/29 校舎完成 落成式挙行(普通教室 18、特別教室 17
その他 11、屋内体育館、プール 26、635m²)
S48.09/01 校旗制定
S49.03/12 校歌制定
S50.06/22 好文橋完成
S50.08/09 テニスコート完成
S52.12/13 校舎西側の園地整備
S55.04/01 第2代校長 川原康滋 就任
S56.04/01 第3代校長 横山英雄 就任
S59.02/25 西中創立 10 周年記念式典挙行
S59.04/01 第4代校長 渡辺晴季 就任
S62.02/01 青梅市教委研究協力校研究発表会
「生徒の心をたがやす指導」
S62.04/01 第5代校長 田野倉訓郎 就任
H01.04/01 第6代校長 太田佑良 就任
H01.08/12 第14回 関東中学校剣道大会に出場
H01.08/ 体育館改修工事完成
H03.04/ 女子標準服改定
H03.03/08 校舎暖房設備改修工事
H03.12/ 中庭多目的スペース設置
H04.02/13 青梅市教委研究協力校研究発表会
「基礎・基本の定着を図る指導」
H05.02/06 西中創立 20 周年記念式典挙行
H05.04/01 第7代校長 中村恒 就任
H05.08/ 音楽室クーラー設置
H06.08/10 第19回関東中学校剣道大会男女共出場
H06.11/02 コンピュータ室完成
H08.02/20 青梅市教委コンピュータ研究協力校研究発表会「学
校教育におけるコンピュータの活用」
H08.12/11 教育目標改定
H10.04/01 第8代校長 稲垣文男 就任
H13.04/01 第9代校長 橋本和博 就任
H13.11/13 市教育研究協力校研究発表会
「基礎・基本の徹底を図り総合的な学習の時間の充実
を目指して」
H14.08/08 第30回関東中学校卓球大会女子出場
H15.08/ 第31回関東中学校卓球大会男女出場
H15.11/08 西中創立 30 周年記念式典挙行
H16.08/ 第32回関東中学校卓球大会女子出場
H17.08/ 第33回関東中学校卓球大会女子出場
H18.04/01 第10代校長 對馬伸一郎 就任
H18.08/ 第34回関東中学校卓球大会男女出場
H18.08/19 全国新体操選手権個人・第6位入賞
H19.12/ 東京都中学生の主張大会、学校賞を受賞
H20.09/ 東京都中学生の主張大会、会長特別賞を受賞
H21.11/6 青梅市教育研究指定校研究発表会「青梅市教育推進
プランにもとづく西中学校の教育活動」
H22.04/01 第11代校長 田中伸佳 就任
H23.01/22 東京都職場体験発表で生徒会が発表

H23.08/08 第39回関東中学校卓球大会男子出場
H24.08/10 第37回関東中学校剣道大会女子団体出場
H27.04/01 平成27年度オリンピック・パラリンピック教育開発校
H28.04/01 平成28年度スーパーアクティヴスクール指定校(～30年度)
平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校
H29.04/01 平成29年度オリンピック・パラリンピック教育推進校
H30.04/01 第12代校長 富田聖和 就任
H31.02/15 スーパーアクティヴスクール指定校研究発表「体幹力を高め、スポーツを楽しむ
心・意欲や協調性、自尊感情の育成を図る。」
H31.04/01 特別支援教室(通級)あおにし教室開設
R02.02/10 青梅市教育委員会研究指定校研究発表会
R02.04/01 東京都教育委員会人権尊重教育推進校に認定
R03.03/12 新しい校旗 寄贈
R03.03/31 校舎屋上防水工事
GIGA スクール構想工事
R4.02/ 東京都教育委員会人権尊重教育推進校
研究発表会
R4.04/01 第13代校長 梅田尚之 就任
R4.8/20 全国陸上競技大会 400m 個人・第5位入賞
R4.11/30 東校舎トイレ改修工事
R5.03/ 体育館空調設備工事
R5.8/7 第51回関東中学校陸上大会女子100mハードル出場
R5.8/24 第50回全日本中学校陸上競技選手会女子100mハードル出場
R5.10/14 西中創立 50 周年記念式典挙行

教育目標

心身ともに健康で国際的視野に立つよりよい社会人をめざして

- 1 進んで学習しよう
- 2 自他を大切にしよう
- 3 責任を果たそう

学校の特徴

青梅市西部に位置し、学区を多摩川が貫流する。秩父多摩甲斐国立公園の奥多摩溪谷の玄関口に位置し、四季折々の自然に恵まれた地域にある。学区は、東西10kmに及び、生徒の通学方法は、電車・バス・ケーブルカー・自転車、徒歩等多様である。また、御岳山、御岳溪谷、玉堂美術館、吉野梅林等があり、東京でも有数の文化財の宝庫である。多くの文人・画家・音楽家・工芸家等が居を構え文化の香り高い地である。

学校の概観

鉄筋3階(一部4階)の近代的校舎には耐震補強工事が施されている。地域住民の教育に対する関心が高い。生徒は素直で誠実である。友情に厚く、誰に対しても気持ちよくあいさつする校風が定着している。また、膝をついての水拭き掃除が励行されている。一人一人を生かす教育を重視し、学力の向上に重点を置き、地域と共に歩む学校を目指している。

在籍生徒数 令和6年4月7日現在

	学級数	男子	女子	合計
1年	3	31	41	72
2年	2	34	42	76
3年	2	38	34	72
	7	103	117	220

教育目標を達成するための基本方針

- ア 生徒の興味・関心を引き出す授業を行い、グループ活動や相談活動を取り入れ、主体的に学習に取り組む態度を培う授業をする。さらに、読書活動等の言語活動を充実させ、学力向上の糧とする。
- イ 学区内の小学校、保護者、地域と交流を図り、ボランティア活動を取り入れて、開かれた教育活動を推進する。また、総合的な学習を中心に青梅学を推進し、青梅を愛する心を育み、将来の社会で活躍できる生徒を育む。
- ウ 通常学級の中で支援の必要な全ての生徒に対して特別支援教育の視点に基づいた実践をする。ユニバーサルデザインを活かした教室環境の整備や授業設計をし、分かりやすい授業を展開する。
- エ オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、精神、スポーツ、文化、環境についての取組を行い、様々な運動の機会を工夫して設定し、体力向上を図る。
- オ 人権尊重教育推進校としての研究成果を生かし、自尊感情の高揚に努め、自他を大切にする生徒を育む。特にSNSによる情報モラル教育を充実させる。
- カ 健康で、安心・安全を最優先にした教育活動を行う。特に、不登校生徒や休みがちな生徒には、生徒・保護者と連絡を密にとり、電話連絡、家庭訪問、別室指導等の個別最適な対応をする。
- キ キャリア教育の視点に立った進路指導を充実させ、3年間を見通した系統的・計画的な進路指導を実践する。その際、体験的な学習や職業人との触れ合いを通して、将来の勤労観・職業観を育む。
- ク 全教職員による組織的な生活指導を推進する。常に生徒に寄り添い、見守り、生徒と教師の信頼関係を築き、問題行動の未然防止・早期発見・早期解決を図り、生徒自身に考えさせる生活指導をする。
- ケ 青梅型コミュニティスクールとして、学校運営協議会を中心に、ランドデザインに基づき、地域のコミュニティとしての意見を取り入れた教育活動を推進する。

指導の重点 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動

ア 各教科

- ・生徒による授業評価や全国・東京都の学力調査の結果を基に校長が作成する学力向上推進プランに基づいて、生徒の学力向上のために協働的な学習活動やタブレットPC等のICT機器を活用した個別最適な学びを授業に積極的に取り入れ、基礎的・基本的事項の確実な定着及びコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を図る。
- ・校内研究において、生徒一人一人の自尊感情を高める授業改善の在り方について研究し、生徒の学力向上を図る。
- ・学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の資質・能力を向上させるために、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を柱として全教員が協力して取り組む。また、数学では少人数・習熟度別指導ガイドラインに則った指導等を小学校と連携し、全学年において行い、個に応じた指導の充実を図る。また、英語ではパフォーマンステストやキャンドゥリストを活用した学習、1、2年生での東京グローバルゲートウェイを活用した体験的な学習を通じて、国際的な視野に立った英語力およびコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・健康づくり、体力向上の指導を教科指導計画に位置付け、体力テストの結果を保健体育の授業へ反映させ、学校行事など教育活動全般で取り組む。
- ・小・中学校一貫教育では、9年間の系統的・横断的なカリキュラムを企画・実施し、規律ある授業、言語活動、生徒の人権に重点をおいた授業の実践や小学校との連携授業を行う。
- ・情報教育の充実を図り、ICT機器を適切に活用し学習効果を高める。
- ・国語の授業で、漢字・語彙コンテストを実施し、全校をあげて漢字・語彙力の育成を図る。
- ・食育リーダーを中心に食に関する指導を充実させ、摂食の改善、健全な食習慣の形成を図る。
- ・がん教育において、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつ意欲・態度を育てる。
- ・オリンピック・パラリンピックのレガシーを各教科の年間指導計画に取り入れ、精神、スポーツ、文化についての定着を継続的に図る。

イ 特別の教科 道徳

- ・道徳教育コーディネータを中心として青梅市小中学校 道徳科授業指針を活用し、心の教育に組織的に取り組み、学校における道徳教育および道徳科の質的向上を図る。
- ・道徳授業地区公開講座を活用して、家庭や地域、小学校と連携した道徳教育を推進する。
- ・学習指導要領の「特別の教科 道徳」の実施にともない、各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図り、生きることの意義を深く考えさせ、人権尊重の精神を培う。

ウ 総合的な学習の時間

- ・青梅の自然や歴史、伝統、文化、産業を学び、持続可能な「ふるさと青梅」を考えさせる。主体的に課題を見つけ、それを解決しようとする態度を育てることで、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ・各教科等で身に付けた知識や技能等を総合的に関連付け、地域の外部講師の活用や体験的な学習を取り入れ、国際理解教育や福祉教育等を推進する。
- ・様々な情報を主体的に選択し、価値ある方向に生かすことのできるメディア・リテラシー、情報収集・編集力、それらをもとにICT機器を活用しつつ発信・表現する力を育成する。

エ 特別活動

- ・学校行事の取組を通して、協調性や社会のルール、責任感を育成する。
- ・望ましい人間関係を確立するために学級活動等を基盤とし、自己および他者を理解し、尊重する態度を育成するとともに、様々な人権課題について理解を図る。
- ・生徒会活動を活発にし、校則の見直し等に積極的に取り組み、主体的に物事に取り組む態度を育む。また、小学校の児童会と共に実施する「あいさつ運動」やボランティア活動としての地域清掃等を通して、自治的活動の向上に努める。

特色ある教育の推進

総合的な学習の時間を軸に学びと心の育成事業を活用して「ふるさと青梅」についての理解を深め、郷土愛を育む教育活動を行う。また、将来の「ふるさと青梅」に貢献できる人材の育成を図る。

ア 青梅の自然・伝統・歴史・文化・産業を学ぶ

- ・自然体験、清掃活動、地域での文化的行事や校外学習、職業講話や職場体験を通して、青梅の自然や文化、産業についての理解を深め、キャリア教育につなげる。

イ 持続可能な「ふるさと青梅」を提案する

- ・将来の「ふるさと青梅」のあるべき姿を考え、「今、自分たちができること」「これから自分たちがするべきこと」を考え、発信する。

確かな学力を身に付けさせるために、各家庭と意見交換等を実施し、連携を深め、家庭学習の習慣化を図る。